特集「マルチエージェントの理論と応用」の編集にあたって

寺 野 隆 雄†

マルチエージェントは利用者や他のエージェントと知的に相互作用する複数の自律的ソフトウェアである．これは，次世代の分散システムを構築する中核的技術として，また，複雑な社会経済システムを分析する新しい道具として国内外においてさかんに研究が進められている．マルチエージェントの理論と応用に関する研究は，情報処理分野において我が国が世界的にも主導的役割りを果たしている数少ない領域の 1 つである．

この研究領域の主要な研究発表の場として JAWS（合同エージェントワークショップ&シンポジウム）がある．JAWS は，2002 年，2003 年，2004 年と継続して開催され，毎回，100 名以上の参加と 80 件前後の発表がある．JAWS は以下の諸学会研究会の共同開催であり，これまでも，日本ソフトウェア科学会・電子情報通信学会・人工知能学会の論文特集号として JAWS における優秀な発表論文を編集掲載している．

- マルチエージェントと協調計算研究会（日本ソフトウェア科学会）
- 人工知能と知識処理研究会（電子情報通信学会）
- 知能と複雑系研究会（情報処理学会）
- 知識ベースシステム研究会（人工知能学会）

本特集は，2005 年 11 月 7–9 日に箱根ホテル小涌園で開催した JAWS2005 において発表された優秀な論文を中心に編集した．本特集のねらいは，我国におけるエージェント関連の研究の発展と普及である．この意味では，JAWS2005 において 100 名以上の参加者を得ており，また，JAWS2005 においては 80 件を上回る発表申し込みを得，また，事前査読の結果，JAWS2005 で実際に発表された論文も 67 件となった．これは，マルチエージェントに関する世界的な会議・ワークショップに比べても，十分な数であり，その意味で，我国のマルチエージェントの理論と応用の発表の場として十分な役割を果たしたものと評価する．

しかしながら，論文特集への投稿件数は 45 件であり，投稿論文に対する査読も通常の論文投稿よりも厳しく，新規性・有用性を問うものとなった．そのため，採録論文数は最終的に 15 件となった．論文特集としては，いささか少ない論文数となったが，その分，採録論文のレベルは高く，我国のマルチエージェントの理論と応用研究の実際をよく表した特集号になったと判断する．論文の範囲も，通常の論文誌の分類に収まりきらず，エージェント・アーキテクチャ3 件；エージェント応用システム 2 件；マルチエージェントの理論 2 件；エージェント経済学 3 件；参加型シミュレーション 3 件；エージェント学習システム 2 件という構成となった．本特集が今後のこの分野の発展に寄与することを期待する．

最後に，本特集号にご協力いただいた編集委員，匿名の差読者，学会担当者の方々に感謝申し上げる．

「マルチエージェントの理論と応用」特集号編集委員会

- 編集長
  寺野 隆雄（東京工業大学）
- 編集委員（五十音順）
  荒井 幸代（千葉大学），荒井 秀一（武蔵工業大学），櫟 粛之（NTT コミュニケーション科学基礎研究所），石田 亨（京都大学），市瀬龍太郎（国立情報学研究所），伊藤 孝行（名古屋工業大学），井ノ上直己（ATR メディア情報科学研究所），岩沼 宏治（山梨大学），大沢英一（公立はこだて未来大学），大須賀昭彦（東芝研究開発センター），小野 哲雄（公立はこだて未来大学），片上 大輔（東京工業大学），加藤 貴司（岩手県立大学），北村 泰彦（関西学院大学），木下 哲男（東北大学），栗原 聡（大阪大学），桑原 和宏（ATR 知能ロボティクス研究所），佐藤 一郎（国立情報学研究所），佐藤 健（国立情報学研究所/総研大），新谷虎松（名古屋工業大学），菅沼 拓夫（東北大学），菅原研次（千葉工業大学），菅原 俊治（NTT コミュニケーション科学基礎研究所），角 康之（京都大学），高玉圭樹（東京工業大学），武田 英明（国立情報学研究所），辻 秀一（東海大学），中内 靖（筑波大学），長尾確（名古屋大学），生天目 章（防衛大学校），服部文夫（立命館大学），藤田 悟（NEC インターネットシステム研究所），藤田 茂（千葉工業大学），松原繁夫（NTT コミュニケーション科学基礎研究所），丸山文宏（富士通研究所），宮島 廣美（鹿児島大学），森山甲一（大阪大学），山田 誠二（国立情報学研究所），山田 隆志（東京工業大学），八槇 博史（京都大学），横尾 真（九州大学）

† 東京工業大学総合理工学研究科知能システム科学専攻